

## 別室と教育支援センターで自信をもてるようにする

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校高学年から不登校が始まる。中学校入学の4月当初から欠席が目立ち、5月には不登校状態になった。周りと自分を比べて劣等感をもち、自己表現をするのが苦手である。2年生の6月から別室登校を始めたところ、表情や態度が少しずつ柔らかくなり、教育支援センターへの通所状況も改善していった。

### 具体的な取組

#### ○別室対応による不登校生徒の支援

- ・別室指導支援員は、褒め、認め、励まし、伸ばすことを意識しながら、当該生徒との会話や学習支援を行い、少しずつ自信をもてるようにした。
- ・加配教員は、出席状況や学習内容等について当該生徒が担任に報告しやすいように、個別のタブレット端末でクラウドを使った報告の方法を整備した。



#### ○教育支援センター等との連携

- ・加配教員が生徒の情報交換を密に行い、担任等はよりよい支援への示唆を得ている。
- ・加配教員が、当該生徒に支援センターの体験入室を紹介したり、センターからは別室への登校ができそうな生徒の情報を集めたりした。

#### ○よりよい学校生活と友達づくりのアンケートの実施

- ・2学期に全ての1年生を対象に実施した。結果を生かして、不登校やいじめの防止、対人関係能力の育成を図った。

#### ○支援会議の企画、運営等

- ・毎週の特別支援委員会での事例を検討した。
- ・S S W及び子ども家庭支援センター、S Cを入れての拡大支援会議を各学期の初めに実施した。

### 成果

9月末現在の不登校出現率（新規）は0.79%であり、都の達成指標3.15%以下になった。また、別室への登校ができるようになった生徒が2人おり、不登校継続生徒が6人減少した。

### 課題

学校や専門機関等とつながりをもつことが難しい3人の生徒への支援方法を組織的に検討する必要がある。